

# 全建総連 東日本大震災支援対策ニュース

全建総連

<http://www.zenkensoren.org/jishintaisaku.html>

## 宮城県連からの報告

### 被災組合激励訪問と被災組合員への支援米引渡

10月28日(金)宮城県連・組合への激励と被災した仲間への支援米を引き渡すため、北海道連の松島委員長、工藤書記長、丸谷書記次長、山形県連の三浦委員長、佐藤副委員長、井上書記長が2tトラック2台分の庄内米を満載して来訪されました。支援米は1日かかりで県内4か所13組合に引き渡し、組合役職員約50人に激励の言葉と共に贈られました。

各地域では「各避難所が閉鎖され、食料支給も打ち切られはじめている状況の中で、被災した組合員への支援米は非常にありがたい」と、宮城県連の役員や各組合役員の方々から感謝の言葉をいただきました。



仙台市建設職組合への引き渡し（約20名の班役員が集まり支援米を受け渡す）



石巻市7組合への引き渡し



南三陸町建設職組合への引き渡し



気仙沼市4組合への引き渡し



# 宮古市長よりお礼状が届きました

晩秋の候 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度の東日本大震災に際し、多大なる義援金を賜り、宮古市民を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

さて、当市にお寄せいただいた義援金につきまして、宮古市東日本大震災被災者義援金配分委員会を開催し、平成23年9月13日から宮古市義援金の申請受付を開始しました。今回の大災害により死亡または行方不明者の遺族、居住していた住宅が半壊以上の被害を受けた世帯のほか、店舗・アパート等を所有する事業主、日本赤十字社の家電製品が支給にならなかった在宅避難者及び両親を津波で亡くした児童等や介護世帯、高齢者施設入居者等を対象として義援金を交付し、被災者それぞれの生活再建の足掛かりとさせていただいております。

今後、復興までは長い道のりとなりますが、この御恩を励みに復興への更なる一歩を踏み出し邁進する所存でありますので、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、ますますのご活躍をお祈り申し上げ、御礼といたします。

平成23年11月10日

全国建設労働組合総連合 様

宮古市長

山本正徳



## 岩手県連からの報告

### 「九州より福岡建労の仲間が激励に」

岩手県連 会長 齋藤 徳重

福岡県建設労働組合の仲間4人が激励に訪れました。前日に福岡から飛行機を乗り継いで、仙台からレンタカーで宮城県南三陸町等の被災地をまわり、岩手県にやってきました。

#### 【岩手県連・佐藤美智男記】

11月8日、福岡建労の下川執行委員長、長野副委員長 教育宣伝・平和部長、池田副委員長 社会保障対策部長、野田書記次長の4人が岩手県連事務所を訪れ、義援金を持ってきてくれました。

下川一雄執行委員長は今回の津波について、「実際に来てみて、はじめて被害の大きさが分かった」と語ってくれました。

また、共済について岩手県連の齋藤会長から新たに全労連共済「いわて労働共済会」に加入し、入院したとき

3,000円の生存給付がでる共済を今年10月からスタートさせたことを伝えました。同じ制度の自主共済仲間になったことで、共にいい共済にしていこうと確認し合いました。

震災後の訓練生育成についての必要性が出され、鳥取県では優れた技能者の下での指導・教育を行う建設関係の技能士を育成した事業主に「鳥取県建設技能士育成奨励金」を支給している等の話が出されました。

遠い、九州の地から来ていただいたことに、役職員一同感謝申し上げます。

福岡県建設労働組合の皆様、本当にありがとうございました。

「ふるさとには負けない」



握手を交わす齋藤会長(右)と下川委員長

## 全建総連福島からの報告 東京土建から大工道具等支援物資の提供

11月11日東京土建の各支部(9人)から、大工道具等支援物資の提供がありました。物資を県連事務所に搬入後、全建総連福島の遠藤安男委員長、狩野光昭書記次長と交流を行いました。

福島は地震・津波被害に加えて原発による放射能汚染が深刻であることを訴えました。全建総連福島県連会館の空間放射線量は0.5マイクロシーベルト、雨水の排水溝は4マイクロシーベルトを超えていて、実際の線量計を見た東京の仲間は驚きました。

心あたたまる支援物資は、組合員を中心に大切に活用させていただきます。あらためて東京土建の仲間に感謝を申し上げます。

## 福岡建労三役来県 地震・津波・原発・風評被害の大きさに絶句

福岡建労の石本副委員長・江口副委員長・菅書記長の3人が福島県に来県し、放射能汚染状況、津波被害地、木造仮設住宅の視察を行いました。全建総連福島は遠藤委員長をはじめとする役員が対応しました。

11月10日に遠藤安男委員長、狩野光昭書記次長が道案内を行い、放射線が高い飯舘村を訪問。放射線を測定しました。飯舘村役場前で測定した結果、4マイクロシーベルトを超えました。山林では10マイクロシーベルト超えています。年間1ミリシーベルト以内にするために、一刻も早い除染が求められています。

その後、太平洋沿いの浜通りにある、南相馬市及び相馬市の海岸線通りを走行し、地震・津波被害の状況を視察。津波は海岸から内陸に3km～4kmも入り込み、多くの人家を飲み込み、多くの犠牲者も出ました。被害の甚大さに言葉もでませんでした。相馬市においては相馬建設組合の高橋恒一組合長と相馬市が発刊した『相馬市東日本大震災第1回中間報告』の資料をもとに東日本大震災の被害状況と復旧・復興への取り組みの経過の交流を行いました。

午後には福島県連会館で義捐金の授与には清水恵蔵書記長が対応しました。その後、白河地区建築組合の北住雅雄組合長の案内で全建総連の組合員が従事した、木造仮設住宅を視察しました。居住している原発による避難者に、木造仮設住宅の居住性を聞きました。「ペアガラスで断熱処理がされており、結露がなく、居住性はプレハブの仮設住宅より快適である」との回答が得られましたが、一刻も早く自宅に戻りたいと



木造仮設住宅の入居者と交流



清水書記長(左)と福岡建労のみなさん

切々と訴えていました。いつ戻れるかわからない原発事故の深刻さがあります。

福岡建労の仲間からは「現地に来ることではテレビや新聞報道ではわからない、津波・地震・原発事故の深刻さがわかり、万が一佐賀県の玄海原発事故がおきたら福岡県も甚大な被害に遭うことが現実味をおび再認識された」との発言がありました。

遠い九州の地からおいでいただいた福岡建労の仲間に厚く感謝を申し上げます。

## 〈救援募金の取組みと支出について〉

幾つかの組合から上記の関係について、問い合わせがきていますので、このニュースを借りてお知らせします。なお、この件については、9月15～16日に開催された全建総連51期第5回中央執行委員会にて報告されています。

### 1、救援募金の集約状況

全国の県連・組合から寄せられた募金は3億4,755万1,982円となっています。

### 2、これまでの支出について

① 地震直後、被害の大きかった岩手県連・宮城県連・全建総連福島・茨城県連・栃木建労・千葉県連・千葉土建に第1次支援金として、各々100万円を送金しました。その後、重大な被害が明らかになった岩手県連・宮城県連・全建総連福島に第2次支援金として各々1,000万円を送金しました。合計3,700万円です。

② 被災組合員及び原発事故に伴って避難を続けている組合員に対してお見舞金を「全建総連災害見舞内規」に基づいて支出しました。

合計で1億4,577万円となっています。

③ 支援物資を被災組合に送りました。594万8,542円の支出です。

④ 復興支援ボランティアを岩手県大槌町、釜石市において5月に全国から総勢120人が参加して実施しました。材料代、ガノリン代、宿泊費など計805万6,189円を支出しました。

⑤ 支援対策本部から被災組合に派遣し、安否確認、避難所訪問、支援物資の搬送、現地対策本部の活動などを通じて805万3,656円を支出しました。

なお、今月開催予定の全建総連52期第2回中央執行委員会で、冬季対策を中心とした第3次支援を提案することにしております。